

古川なおき レポート 第133号



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務活動報告

2015年12月1日発行



ベナン共和国訪問

お元気ですか！
一年は早いもので師走となりました。
年末年始を控え、街も活気づいています。

○横浜市国際局の設置

先月、日本アフリカ友好横浜市議員連盟※の副会長として、渡辺副市長や国際局職員と一緒にアフリカのベナン共和国を訪問しましたので、ご報告させていただきます。

横浜市では、今年4月から国際局を新設しました。開港以来、多くの外国人が横浜を訪れ、貿易港として発展した横浜は、現在でも多くの国際会議が開催されています。APEC（アジア太平洋経済協力会議）やアフリカ開発会議では、各国の国家元首が横浜を訪れ、世界のニュースの中心となりました。また、アップル社の研究開発拠点が港北区に誘致されるように、今後は、海外からの企業誘致や市内企業の海外進出にも横浜市として力を入れていかなければなりません。開発途上国への技術支援や、姉妹都市、各種団体の国際交流支援など、国際文化都市として横浜が文化的、経済的に発展していくためにも、横浜市国際局の役割は大きいと思います。

○アフリカ開発会議

アフリカ開発会議は、21世紀半ばにかけて世界経済の中心地になる可能性が高いアフリカの開発をテーマとする会議です。2008年、2013年に横浜で開催されました。2013年の第5回アフリカ開発会議では、39名の国家元首・首脳級を含むアフリカ51カ国、31カ国の開発パートナー諸国、72の国際機関並びに民間セクターやNGO等、約4,500名以上が参加し我が国が主催する最大規模の国際会議となり、横浜市にとっても大きな経済効果がありました（広告価値換算額は約114億円）。横浜市会でもガーナ国のクフォー大統領や駐日ベナン共和国大使館ゾマホン特命全権大使にもご講演いただいています。

○横浜市とベナン共和国コトヌー市

2013年にはベナン共和国コトヌー市長が来浜され、「横浜・コトヌー両市は、『共に成長する』理念を共有するパートナーとして、世界の平和と発展に貢献することを目指し、交流と協力を始めていく」と共同声明を出しました。今回の訪問は、この共同声明を具体的に進めるための訪問でした。

ベナン共和国は西アフリカに位置し、人口は1060万人、面積は日本の3分の1。二大産業は、綿花産業と

コトヌー港湾サービスで、経済成長率は約5%、一人当たりの国民所得は年間約9万円です。ベナン共和国へ行くためには日本からの直行便は無く、ヨーロッパの都市等で乗り継がなくてはならないので、約30時間かかります。今回の訪問では、コトヌー市のレアディ・ソグロ市長と会談し、港湾都市として技術協力を進めることや、未来を担う若い世代の交流を進化させることを合意しました。そして、都市の経験や課題を積極的に共有し、両市のさらなる発展を目指していくことを確認しました。

視察した市内のスルレ小学校では、700人の生徒が歌と民族舞踊で歓迎してくれましたので、私たちも横浜市歌を歌って返礼させていただきました。子どもたちの笑顔は、どこの国も素晴らしいです。



2003年に設立された「たけし日本語学校」では、「日本で飲食店を経営したい」「経済学を学びたい」など一度も日本に行っていない若者に流暢な日本語で挨拶いただいたことに驚きました。

また、ベナン共和国では大切な方をお招きして会食する時は、乾杯は水で行います。人間は水が無ければ生きていくことができないので、貴重な水に感謝する思いから習慣化されたようです。横浜に比べればコトヌーの街は発展しているとは言えませんが、活気にあふれ、人々が必死で生活している様子を見ると、日本も学ぶべきところは沢山あると思いました。日本から遠いアフリカは広く、今後大きく発展する可能性に満ちています。日本が発展するためには、欧米諸国に負けず、アフリカの開発にもっと挑戦すべきではないかと感じました。

今年も一年間お世話になり、ありがとうございます。古川なおきレポートもお読みいただき、心より感謝申し上げます。どうか、来年2016年が皆様にとって素晴らしい年になりますことをご祈念申し上げます。本当にありがとうございました。

横浜市議員 古川なおき

※「日本アフリカ友好横浜市議員連盟」…アフリカ開発会議の横浜開催を機に、横浜市会としてもアフリカ諸国との友好を促進するため結成され、港北区選出の佐藤祐文前議長が会長で、私は副会長を務めています。

古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成27年 政策・総務・財政委員会委員長
健康づくり・スポーツ推進特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市会FCキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/横浜スキー協会会長
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問/旭区剣道連盟顧問

☆政務調査員・塚本による報告 File8 台湾研修報告 (高雄編)

この度、全国政策プレゼンコンテスト入賞を受け、自民党台湾訪問団の一員として台湾研修に行つて参りました。私にとっての台湾は教科書で見聞きした範疇を超えないどこか漠然としたものでしたが、今回の訪台を通じて台湾に対するイメージが大きく変わりました。私が肌で感じた台湾の姿を前号に引き続きご報告いたします。

台湾研修 (後編 高雄編)

台湾研修の後半は南部の高雄市を訪問しました。首都の台北市から高速鉄道で約1時間30分、人口は約277万人の台湾第2の都市です。

そして、台湾の南北を結ぶこの高速鉄道こそが日本が初めて世界に輸出した新幹線なのです。海外の鉄道は時間通りに来ないという印象をお持ちの方も多いと思いますが、台湾新幹線については出発も途中駅の到着も終点の到着もすべて定刻どおりでした。また、車体のカラーリングこそ違いますが内装の雰囲気や清潔感、乗り心地に至るまで日本の新幹線と比べても遜色なく、改めて日本の鉄道技術の質の高さを感じました。

高雄市では市議会、市庁舎を訪問しそれぞれ議長、市長と懇談をさせていただきました。私が一番驚いたことは議長、市長ともに女性であるだけでなく市議会議員や議会スタッフも含め多くの女性が活躍していたことです。その理由として、高雄市議会ではクォータ制という制度を導入しており、選挙の際には一定の割合で必ず女性の候補者が当選する仕組みになっているようです。日本ではまだ導入例がない制度であり大変興味深くお話を伺いました。

女性の社会進出が進む反面、晩婚化、少子化が深刻しているとお話も伺いました。台湾における合計特殊出生率2013年の数字で1.06であり世界でも最低の水準にあります。女性の社会進出と晩婚化が進んだ背景の一つに徴兵制度があるとお話も伺いました。現在は廃止が決定され移行期間中ですが、以前は徴兵の結果、男性は女性に比べ留学や就職機会が不利になることや、適齢期にパートナーと離れ離れになることによる婚姻の時期の遅れなどが問題として挙げられていたようです。女性の社会進出は歓迎されるべきですが、単に女性の就業機会を増やすだけではなく男性も家事分担を見直すことやそれを受け入れられる社会基盤を構築しなければ結果的に女性の負担が増えるだけでなく、少子化などの問題もより深刻化すると思います。現在の台湾の状況から学ぶべき教訓は多々あるように感じました。



▲高雄市議会前にて



▲高雄市の康裕成市長と

高雄市を訪問してもうひとつ驚いたことは市のシティセールス力が高いことです。市庁舎を訪問した際に高雄市のプロモーションビデオを拝見したのですが、全米ナンバーワン映画の予告編かと思うほど完成度の高い映像資料を用いて市内の観光名所などを紹介されていました。この映像は無料動画サイトでも配信され多数のアクセス数を記録し、映像をきっかけに高雄市を訪れる観光客も増えているようです。とりわけ言葉の通じない外国人には映像の効力は絶大であり、ぜひとも国際都市横浜でも取り入れて頂きたいと思いました。

今回の訪台は私にとって初めての経験でしたが、本当に多くの気づきを頂きました。訪台の機会を頂いたことに心から感謝するとともに、今後の政務調査活動に活かして参りたいと思います。皆様には前項編2回に渡りご購入いただきまして、誠にありがとうございました。

塚本 勇太



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
希望ヶ丘駅より徒歩6分

